

# 小学校教員養成における英語科の 授業実践力向上のための取組

## The approach to improve English practical skills in elementary school teacher training

福島 治子

Haruko FUKUSHIMA

### 要旨

令和2年度2年後期の「小学校英語I」で、学生の実態を踏まえつつ、しっかりとした英語の授業実践力をつけるため、「英語の実践に必要な英語」、「英語活動」の指導内容として、ゲーム、絵本や歌を使った活動を体験させた。活動内容は、DVDを見てイメージをもたせ、マニュアルや教具は教師が準備をし、グループごとの練習、さらに発表前には授業時間外に各グループ30分程度の指導をした。発表では、教師役、児童役、それ以外の学生は発表の観察をし、すべての学生が発表終了ごとに、各立場での振り返りの記録をした。どのグループの発表内容も重複することがないように、パターンを変えた。発表前のグループごとの指導により発表のレベルもある程度ものになるようにしたため、学生の振り返りの記述を見ると、気づきも多く、より学ぶことが多かったのではないかと考える。学習形態としては、6名程度のグループで練習、発表をさせた。一人一人が役割を持ち、自分のパートはしっかりと役割を果たさなければ、他のメンバーがフォローすることは難しく、一人一人がグループの一員として練習をせざるを得ない状況にしたので、個々人の練習にもなったのではないかと考える。課題として、事前指導の折、発音に課題のある学生が多く、発音の指導が必要であることが浮き彫りになった。

### 1. 「小学校英語I」における英語の指導力育成のための取組

本学では、2年後期に「小学校英語I」を、3年生前期に「小学校英語指導法」を学習する。その学習で身に付けた知識や技能、実践力をもとに、3年後期の小学校教育実習や採用試験、そして小学校での授業を行っていくことになる。わずか、「小学校英語I」、「小学校英語指導法」の2,700時間で、小学校の英語科の授業を行うに十分な力がつくことはあり得ないが、学生の実態を踏まえ、少しでもしっかりとした英語の授業実践力をつけるため、令和2年度に「小学校英語I」において行った取組をここに報告する。

#### (1) 「小学校英語I」の授業概要

令和2年度、教科書として「コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識」(村野井仁(編著)(2018).(株)大修館書店)、「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」(文部科学省, 2017.)を使用した。

15回の授業内容の概要は次のとおりである。

表1 「小学校英語I」の授業概要

|    |  |
|----|--|
| 1回 | 授業実践に必要な英語(聞くこと・話すこと(やりとり)):教室英語         |
| 2回 | 小学校学習指導要領における外国語の内容<br>小・中学校の接続を意識した英語教育 |
| 3回 | 英語の音声、発音と綴りの関係                           |
| 4回 | 授業実践に必要な英語:英語活動(アクティビティ)                 |

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 5回  | Small Talk Presentation 1       |
| 6回  | 授業実践に必要な英語：英語絵本の読み聞かせ、英語の歌、等    |
| 7回  | 英語活動：英語の絵本の読み聞かせ、英語の歌、アクティビティ、等 |
| 8回  | 英語活動：英語の絵本の読み聞かせ、英語の歌、アクティビティ、等 |
| 9回  | 国際理解と異文化間コミュニケーション              |
| 10回 | Small Talk Presentation 2       |
| 11回 | 英語の語彙、正書法                       |
| 12回 | 英語の文構造・文法                       |
| 13回 | 第二言語習得理論                        |
| 14回 | Small Talk Presentation 3       |
| 15回 | 「英語指導法」につなげる「外国語(英語)」           |

主にクラスルーム・イングリッシュを運用し、ゲーム・英語の絵本・英語の歌などを使い、英語で授業を行うイメージを持たせ、実際に英語を使った指導を体験させることで、実践力を培うことを目的とし、15回のうち、第4回・第6回～第8回、合計4回にわたって実施した「英語活動」の授業について、授業内容をまとめ、その成果・課題について考察をする。

(2) 第4回授業「授業実践に必要な英語：英語活動（アクティビティ）」の概要

「DVDですぐわかる！ 明日から使える！ 小学校教師のための英語ゲーム これだけ！」(吉田研作(監修)(2010). (株)アルク)に掲載されているゲームのうち「フルーツバスケット」、「ビンゴ」、「ミッシングゲーム」、「ジェスチャーゲーム」、「スリーヒントクイズ」の5種類のゲームを付属のDVDで見せる。その後、ゲームを進めるために作成した英語のマニュアルを各学生に配付する。

受講者50名を8グループに分け、「フルーツバスケット」、「ビンゴ」、「ミッシングゲーム」、「スリーヒントクイズ」の4種類のゲームを、2グループが同じゲームに取り組めるよう割り当てをする。グループごとに、ゲームを教師役として実施できるよう、担当するパート決めや発音の練習をする。

この授業では、小学校英語の授業において、語彙や表現への慣れ親しみや定着を図るため、ゲームを使うことも多いので、よく使用されるゲームを取り上げ、マニュアルを示し、暗記をして教師役を体験することにより、授業をより円滑に進めることができる力を育成することを目的として実施した。

(3) 第6回授業「授業実践に必要な英語：英語の絵本の読み聞かせ、英語の歌、等」

教科書第13章『英語文学と児童文学』、『教職員研修用 小学校外国語活動指導法ガイドDVD 6歌とチャンツの活用』(東京書籍)、『英語教師の玉手箱4 好奇心を刺激する、絵本を使った小学生の英語活動』(ジャパンライム株式会社)を使用し、特に、児童文学においては Mother Goose について、英語の歌では、グループ発表での使用を考慮に入れ、『Teddy Bear』、『The Hokey Pokey』、『Seven Steps』を紹介した。

また、絵本を使った活動では『The Gigantic Turnip』の指導のDVDを活用し、グループ発表において、教師役として、絵本を使って実践できるよう指導した。

その後、前時と同じメンバーの8グループに、4種類の読み聞かせや歌の活動をするよう課題を与えた。その4種類の活動は、①歌『Teddy Bear』あるいは『The Hokey Pokey』、絵本『From Head to Toe (Eric Carle)』の読み聞かせ、②絵本『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? (Bill Martin Jr/Eric Carle)』の読み聞かせ、③歌『Seven Steps』、絵本『Five Little Monkeys Jumping on the bed』の読み聞かせ、④絵本『The Very Hungry Caterpillar (Eric Carle)』の読み聞かせである。

①～④の課題の中から、2グループずつ同じ課題を割り当て、学生は、役割を決め、発音練習等、発表の準備をする。

各グループは、英語のゲームと絵本や歌を使った活動、2種類のアクティビティを課題として与えられ、それぞれの練習をしたうえで、どちらの活動を発表するかを選択し、そのリハーサルのためのアポイントメントを教師にとるよう指示をする。

同じ課題を与えられているグループが2つできるが、1つのグループが英語のゲーム、もう一つのグループが絵本や歌を使った活動の発表をするようにし、先にリハーサルの予約を取ったグループが優先して活動内容を決めることができることとした。

小学校英語では、英語の歌や絵本は、子どもたちが興味を持ったり、集中することができるよい教材となる。小学校英語に使用できる歌や絵本を知るとともに、DVDの視聴を通して、授業での活用についてのイメージを持たせ、その活動を体験させるとともに、ただ歌う、読むではなく、子どもたちが授業に入っていきやすいように、またより英語や絵本の内容を理解しやすくなるように指導内容を、アレンジし、(4)で記述する授業時間外に指導した。自分のグループだけでなく、他のグループの発表を見ることでより多くのパターンを学ぶことができるようにした。

#### (4) 授業外の時間での発表のリハーサルの指導内容

「フルーツバスケット」、「ビンゴ」、「ミッシングゲーム」、「スリーヒントクイズ」の4種類のゲームについては、「DVDですぐわかる！ 明日から使える！ 小学校教師のための英語ゲーム これだけ！」(吉田研作(監修)(2010). (株)アルク)に掲載されているゲームのマニュアルをもとに、私がグループ発表用にアレンジをしたマニュアルを作成した。さらに、教具は私が用意をし、学生はそれを用い、活動の英語の使用の部分に集中できるようにした。学生は自分が教師役をするパートは暗唱をし、授業者以外が児童役をした。円滑に英語のゲームを行うことができるよう、各グループ約30分の指導を授業時間以外の時間帯に行った。

また、4種類の読み聞かせや歌の活動については、授業外の時間帯の指導において、次のように指示をした。

#### ①歌『Teddy Bear』あるいは『The Hokey Pokey』、絵本『From Head to Toe (Eric Carle)』の活動内容

1名が、クラスルーム・イングリッシュを使用し、雰囲気づくりをし、活動をスタートさせ、『Teddy Bear』あるいは『The Hokey Pokey』の歌を動作をつけながら歌い、児童も動作を一緒にできるようにする。

次に、他の6名が、絵本の見開きを1枚とするピクチャー・カードをもち、

T : Look at this picture. What is this?

S : It's a penguin. (giraffe, buffalo, monkey, seal, gorilla, cat, crocodile, camel, donkey, elephant.)

T : Repeat after me. It's a penguin. (giraffe, buffalo, monkey, seal, gorilla, cat, crocodile, camel, donkey, elephant)

S : It's a penguin. (giraffe, buffalo, monkey, seal, gorilla, cat, crocodile, camel, donkey, elephant)

T : Let's begin a storytelling.

絵本『From Head to Toe (Eric Carle)』の読み聞かせをする。動物の動作を実際にしながら、読む。その後、児童を立たせ、教師役が動作の表現を発音し、児童もともに発音しながら、その動作をする。

T : I turn my head. (動作をつけて) Let's do the action together.

S : I turn my head. (動作をつけて)

T : I turn my neck. (動作をつけて) Let's do the action together. 以下、繰り返す。

(raise my shoulders, wave my arms, clap my hands, thump my chest, arch my back, wriggle my hips, bend my knees, kick my legs, stomp my foot, wiggle my toe)

S : I turn my neck. (動作をつけて) 以下、繰り返す。

(raise my shoulders, wave my arms, clap my hands, thump my chest, arch my back, wriggle my hips, bend my knees, kick my legs, stomp my foot, wiggle my toe)

#### ②絵本『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? (Bill Martin Jr./Eric Carle)』の活動内容

各発表者(6名)が、絵本の見開きを1枚とするピクチャー・カードをもち、

T : Look at this picture. What color is this?

S : It's red. (yellow, blue, green, purple, white, black)

T : Repeat after me. It's red.

S : It's red. (yellow, blue, green, purple, white, black)

T : What animal is this?

S : It's a bird.

T : Repeat after me.

It's a red bird. (yellow duck, blue horse, green frog, purple cat, white dog, black sheep, goldfish)

S : It's a red bird. (yellow duck, blue horse, green frog, purple cat, white dog, black sheep, goldfish)

絵本『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? (Bill Martin Jr/Eric Carle)』の読み聞かせをする。読み聞かせの中で、“Brown Bear, Brown Bear,”の部分は教師役が行った後、児童に言わせる。

③歌『Seven Steps』、絵本『Five Little Monkeys Jumping on the bed (Eileen Christelow)』の活動内容

1名が、クラスルーム・イングリッシュを使用し、雰囲気づくりをし、活動をスタートさせる。

T : Hello, everyone. How are you today? Do you know the song 'Seven Steps'? Let's sing a song. Let's sing together.

『Seven Steps』の歌をCDに合わせて歌う。児童も一緒に歌う。

1回目 (1234567, 1234567, 123, 123, 1234567)

2回目 T: Let's skip number 3. (12☆4567, 12☆4567, 12☆, 12☆, 12☆4567)

3回目 T: Let's skip number 5. (1234☆67, 1234☆67, 123, 123, 1234☆67)

次に、他の教師役の学生が、絵本の見開きを1枚とするピクチャー・カードをもち、

T : Look at this picture.

One, two, three, four, five. Five little monkeys. Repeat after me. Five little monkeys.

S : Five little monkeys.

T : It's a bed time. Five little monkeys take a bath. Repeat after me. Take a bath

S : Take a bath.

T : Five little monkeys put on their pajamas. Repeat after me. Put on their pajamas

S : Put on their pajamas

T : Five little monkeys brush their teeth. Repeat after me. Brush their teeth

S : Brush their teeth

T : Five little monkeys say good night to their mama. Repeat after me. Say good night to their mama.

S : Say good night to their mama

T : Five little monkeys jump on the bed. Repeat after me. Jump on the bed

S : Jump on the bed

T : One fall off and bump his head. Repeat after me. One fall off..

S : One fall off.

T : One fall off and bump his head. Repeat after me. One bump his head.

S : One bump his head

T : The mama calls the doctor. Repeat after me. Call the doctor.

S : Call the doctor.

T : No more monkeys jumping on the bed. Repeat after me. No more monkeys jumping on the bed

S : No more monkeys jumping on the bed

T : Five little monkeys fall fast asleep. Repeat after me. Fall fast asleep.

S : Fall fast asleep

絵本『Five Little Monkeys Jumping on the bed (Eileen Christelow)』の読み聞かせをする。

④絵本『The Very Hungry Caterpillar (Eric Carle)』の活動内容

教師役の学生が、絵本を持ち、ページをめくり、指で絵本を指しながら、

T : Look at this picture. What is this?

S : It's an egg.

T : That's right. Repeat after me. It's an egg.

T : (Next page) What is this?

S : It's a caterpillar.

T : You are right. Repeat after me. It's a caterpillar. A tiny and very hungry caterpillar.

T : (Next page) He ate some food. What is this?

S : It's an apple.

T : Good. What is this? (以下、繰り返す)

S : It's a pear. (a plum, a strawberry, an orange.)

T : (Next page) Chocolate cake (ice-cream cone, pickle, Swiss cheese, salami, cherry pie, sausage, cupcake, watermelon.)

T : He had a stomachache!

(Next page) The next day he ate one green leaf. He felt much better.

(Next page) He was a big, fat caterpillar. He built a small house, a cocoon.

絵本『The Very Hungry Caterpillar (Eric Carle)』の読み聞かせをする。

(5) 第7回授業「英語活動：英語の絵本の読み聞かせ、英語の歌、アクティビティ、等」の概要  
4つのグループが、課題として与えられた英語のゲームあるいは絵本や歌を使った活動のどちらかを発表する。

同じ課題を与えられているもう一つのグループが、児童役をする。

発表後、全学生が、発表の評価をする。

(6) 第8回授業「英語活動：英語の絵本の読み聞かせ、英語の歌、アクティビティ、等」の概要  
残りの4グループが、課題として与えられた英語のゲームあるいは絵本や歌を使った活動のどちらかを発表する。前時と同じく、同じ課題を与えられているもう一つのグループが、児童役をする。  
発表後、全学生が、発表の評価をする。

## 2. 「英語活動」時における学生の振り返り・感想

### (1) 「英語活動 (ゲーム)」に係る発表学生の振り返り

| 英語活動 (ゲーム名) | 児童役の反応・動き   | 発表者の振り返り  |
|-------------|---|---|
| 「フルーツバスケット」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>うまく伝わってなくて、とまどっているところが何度かあった。</li> <li>よくわかっていなかった。</li> <li>楽しそうではあった。</li> <li>ルールはわかっていたが、動くのに夢中だった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>流れに精一杯で、その時の児童の反応を確認せず、進めてしまったから、場に応じた声掛けとか、もう一度繰り返すとかを心掛けたいと思った。</li> <li>ルールを理解していなかったため、何度でも言うべきだと感じた。</li> <li>緊張したが、皆の前で英語を使って発表する良い機会だった。ミスしたのもあったので、しっかり努力して、教員になったときにしっかりできるようにしたい。</li> <li>ルールや細かい決まりを伝えるのが難しいと感じた。</li> <li>ゆっくり言ったり、もう一度やらせたりなどの工夫が必要だった。</li> <li>ルール説明をきちんとわかりやすくできるよう工夫すればよかった。</li> <li>ルールの説明のとき、言い換えできなくて難しかった。</li> </ul> |

|             |   |  |
|-------------|---|--|
| 「ビンゴ」       |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しゆっくり話せばよかった。周りを見て数字をだせばよかった。</li> <li>・英語を言うのに必死になっていたが、児童の反応を見ながら行うことが大切だと感じた。</li> <li>・大きな声ではきはきとわかりやすくが大切。</li> <li>・正しく数字に○を付けているのを見ていなかった。</li> <li>・立ち位置に配慮が必要だと思った。</li> <li>・きちんと○をしているのかを見ながら進める。</li> <li>・スムーズな面とそうでない面があったので、想定をしたうえで、きちんと授業ができるようにしたい。</li> <li>・前に立つと緊張して声が小さくなってしまった。目線も上手に動かせなかったと思う。</li> <li>・次は細かい児童の動きにも気を配りながらできるよう心掛けたい。</li> <li>・児童の動きに合わせた進行ができていなかったなので、セリフのタイミングはしっかりと吟味していくようにしないといけない。</li> <li>・英語を言うのに必死になって、児童役を見ることができていなかった。</li> </ul> |
| 「ミッシングゲーム」  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・よくわからず動いている気がした。</li> <li>・何の楽器が消えたのか、近くの人とひそひそ話す自然な空気ができていたので、良かった。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問を繰り返してあげることが大切。</li> <li>・臨機応変な対応ができていたと思う。</li> <li>・発音したことのない英語や子どもにカタカナ発音のままにさせない大切さを学んだ。</li> <li>・非常にわかりやすいゲームの中で、発音を聞かせることの大切さを実感した。</li> <li>・緊張でセリフがとび、少しくやしい。</li> <li>・反応をきちんと見て進めることができた。</li> <li>・カタカナ発音をよくしていけたらもっと良かった。</li> <li>・大人数の前で発表するのは緊張する。</li> <li>・児童の反応がわからないので、すごく不安だった。</li> <li>・自信をもって発表できた。</li> <li>・メンバー全員がゲームの仕方を伝えるという意識をもってできた。</li> <li>・臨機応変に対応できるようにしたい。</li> </ul>  |
| 「スリーヒントクイズ」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・少し反応が少なかった。</li> <li>・ルールは理解できていた。</li> <li>・自分からやろうとしていた。</li> <li>・質問されたら手をあげて考えていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと覚えきれていなかった。</li> <li>・児童はルールを理解していたように思えたが、もう少し活発にさせられるようになりたかった。</li> <li>・発音をもう少し頑張りたいと思った。</li> <li>・流れとしてできていたが、単語の発音が上手にできなかった。</li> <li>・発音を頑張りたい。</li> <li>・児童役の人が手を挙げてくれて助かった。</li> </ul>  |

(2)「英語活動(ゲーム)」に係る活動を観察した発表学生の振り返り

| 英語活動(ゲーム名)  | 児童役の反応・動き   | 活動を観察した学生の感想   |
|-------------|---|--|
| 「フルーツバスケット」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを理解できていない児童役がいた。</li> <li>・英語が速いと不安そう。</li> <li>・繰り返すうちに、後半はルールを理解していた。</li> <li>・戸惑っている児童が多かった。</li> <li>・レインボーのときは活発に動いていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナ発音</li> <li>・はっきり発音すべきだ。</li> <li>・声が小さい。</li> <li>・教師が自信なさそうだと、児童も不安になるので、堂々とすることが大切だと感じた。</li> <li>・児童に伝えるより、文を覚えて間違えないように言うことを意識しすぎているようだった。</li> <li>・英語が少し難しいのに、早口でよくわかっていなかった。</li> <li>・ルールを説明して子どもが理解していなかったら、もう一度ジェスチャーや言葉を替えて説明するとよいと思う。</li> <li>・児童の方を向いて、ゆっくりはっきりと言い、児童が理解しているか確認しながらする必要があったと思った。</li> <li>・ゆっくりはっきり言うことの重要性や、分からない際は、ジェスチャーを使うなど、児童が理解していることを確認しながらすることが大切だと思った。</li> <li>・児童の答えに応じた英語の返しが必要だと思った。</li> </ul> |

|             |   |   |
|-------------|---|---|
| 「ビンゴ」       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指示もきちんと伝わっていて、ルールをよくわかって活動できていた。</li> <li>・英語での算数の質問に児童役が頑張って答えようとしていた。</li> <li>・積極的に答えていた。</li> <li>・楽しそうに取り組んでいる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音がきれいで、聞き取りやすい。</li> <li>・声が少し小さい。</li> <li>・声の大きさもちょうどよい。</li> <li>・理解できるよう繰り返し言っていた。</li> <li>・説明も分かりやすかった。</li> <li>・数を数えるとき「一緒に数えて」と言う声掛けがよかった。</li> <li>・ジェスチャーもあって説明が聞きやすかった。</li> <li>・ビンゴの用紙に数字を書く時間が短かった。</li> <li>・児童の記入のスピードを考慮して発言する。</li> <li>・児童が答えやすいように接していた。</li> <li>・児童の動作を確認してから、次へ進んでいて、とても良かった。</li> <li>・一緒に数えたり、表情を一人一人見ながらしていてよかった。</li> <li>・ビンゴになった時ほめていた。</li> </ul>   |
| 「ミッシングゲーム」  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞かれたことにきちんと受け答えができていた。</li> <li>・楽しそうだった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音がとてもわかりやすく、伝わりやすかった。</li> <li>・ジェスチャーがあり、声も大きくはっきりして聞き取りやすかった。</li> <li>・声が小さい人が何人かいた。</li> <li>・発音が大事だと思った。</li> <li>・アクセントが気になった。</li> <li>・児童の発言一つ一つに反応して、一言でも返すことで、児童が発言しやすくなる空気を作ることができたと思った。</li> <li>・児童が正解をしたとき、もっと褒めるようにした方がよい。</li> <li>・分かっていないと感じたときは、質問を繰り返すことが大切。</li> <li>・児童が予想外の動きをしたときにも、もう一度質問するなど、その場に応じた対応が必要だと思った。</li> <li>・子どもの発音がカタカナ発音のときは、教師が正しい発音で言い換える。</li> <li>・発音をしたことのない英語の練習やカタカナ発音をそのままにしない大切さを学んだ。</li> <li>・児童役ときちんとやりとりができていた。</li> </ul> |
| 「スリーヒントクイズ」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのゲームの内容がわかっていないようだった。</li> <li>・意味を理解して行動できていた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、ゆっくりと言っていて、ゲームの内容がはいつてきやすかった。</li> <li>・写真やジェスチャーがあって分かりやすかった。</li> <li>・もう少し児童の様子をみながら、できたらよいと思った。</li> <li>・同じ児童ばかり当たっていた。</li> <li>・教師が思いっきりジェスチャーをすることで、児童も恥ずかしさがなくなるのかなと思った。</li> <li>・間違ったら、ジェスチャーをもう一度見せていた。</li> <li>・臨機応変な対応ができていた。</li> <li>・児童の発言に返事があまりできていなかった。</li> <li>・拍手があると、参加している感じがして意欲も増すと思った。</li> </ul>   |

教師役・児童役を体験し、また他のグループの活動を観察した学生は、まず、英語の発音をブラッシュアップする必要性を強く感じ、さらに英語で指導することが初めての体験であり、ゲームのルールを説明したり、児童の反応に対して英語を返すことの難しさを実感している。児童が理解しやすいよう、ゆっくりはっきり発音したり、繰り返すことの大切さも感じていた。また、英語の授業に限ったことではないが、児童の反応を見て進めること、児童の動きに合わせた進行についても体験できていた。

### (3) 「英語活動（読み聞かせ、等）」に係る発表学生の振り返り

| 英語活動<br>(絵本、等)                                     | 発表者の振り返り   |
|--|--|
| 歌『Teddy Bear』<br>絵本『From Head to Toe (Eric Carle)』 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きを入れた、体験的な活動であった。</li> <li>・うる覚えの点がいくつかあった。</li> <li>・実際に前に立つと、英語が出なくなるので、もう少し練習をしておけばよかった。</li> <li>・動作をするとき、英語の発音をみんなしっかりできた。</li> <li>・もう少しゆっくり発音した方がよかった。</li> <li>・なんとかやりきった。みんなハキハキできていてよかった。</li> <li>・前に立つ教師役が恥ずかしがらずに、しっかりと大きな動作ができた。</li> </ul> |

|   |  |
|---|--|
| <p>絵本「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? (Bill Martin Jr/Eric Carle)」</p>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張した。</li> <li>・英語の動物の鳴き声もいれたが、違いをチェックし、しっかりとできるようにした。</li> <li>・最後に児童役の人があきていたので、実際に子どもにするときにはもっと工夫が必要だと思った。</li> <li>・緊張して、やはり練習みたいにはいかなかったし、発音や鳴き声はもう少し頑張ればよかった。</li> <li>・〔l〕と〔r〕の発音が上手にできなかったのが残念です。</li> </ul>   |
| <p>歌『Seven Steps』<br/>絵本『Five Little Monkeys Jumping on the bed(Eileen Christelow)』</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語・意味のまとまりを意識しながら、はっきり読むよう心掛けた。もう少しゆっくり言えばよかった。</li> <li>・準備時間しかり、詰めが甘かったと感じる部分が多数あった。指さしやイントネーションなど。</li> <li>・〔l〕の発音やリズムなどの練習をたくさんした。</li> <li>・先生に教えていただいた発音を意識して読むことができた。児童に問いかけることを増やしたらよくなると思う。</li> <li>・全体的にもう少しハキハキと大きな声でしゃべる必要があった。</li> <li>・もう少し反応を見ながら、読めていたらよかったかなと思う。はっきりと伝えることはできた。</li> </ul> |
| <p>絵本『The Very Hungry Caterpillar(Eric Carle)』</p>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表するのは、緊張したけど、いい機会でした。</li> <li>・単語の確認が多かったので、学習効果は高い。声が小さいので、発音が分かりにくい。</li> <li>・少し発音が曖昧になっていた。</li> <li>・普段の発表以上に緊張してしまって発音を少し間違ってしまったので、気を付けた。</li> <li>・元氣よくできた。スピードが速かった。発音が違うところがあった気がする。</li> </ul>  |

(4)「英語活動(読み聞かせ、等)」に係る活動を観察した発表学生の振り返り

| 英語活動<br>(絵本、等)  | 活動の観察をした学生の感想   |
|---|---|
| <p>歌『Teddy Bear』<br/>絵本『From Head to Toe(Eric Carle)』</p>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音がとても丁寧で、きれいだった。</li> <li>・アクションを入れていて、よかった。みんな笑顔で取り組んでいた。</li> <li>・ジェスチャーを使って、児童にもわかりやすくできていた。</li> <li>・歌で動きと発音をし、絵本でも動物と動きを一緒にするので覚えやすい。</li> <li>・何回も同じ単語を繰り返したり、動作を付けて単語を言っていたので、とてもわかりやすいし、スムーズに理解することができた。今回のやり方は、児童もとてもわかりやすく、楽しく学習することができると思う。</li> <li>・当てる児童が同じだったので、全員が参加している感じではなかった。</li> <li>・体を動かしながら英語を話すことでより深い学びにつながると思った。</li> <li>・児童も一緒に動く活動が多く、退屈にならないので良い。</li> <li>・イントネーションがおかしいところがあった。</li> <li>・合間の日本語がなくなるともっと良くなる。</li> <li>・絵を指さして単語と結び付けてよくわかった。</li> <li>・児童への声掛けも多かった。</li> </ul>  |
| <p>絵本『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?(Bill Martin Jr/Eric Carle)』</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生役が明るく、子ども役の人たちが惹きつけられていた。</li> <li>・動物と色を分けて練習し、次につないで練習していた。</li> <li>・動物の鳴き声を入れることで、より分かりやすく、楽しい活動になっていた。</li> <li>・とてもゆっくりで、丁寧で、分かりやすく、面白かった。</li> <li>・何度も繰り返し発音を確認することで、楽しみながら活動ができていた。</li> <li>・児童の反応を見ながら、絵本を読み進めていて、内容が理解しやすいと思った。</li> <li>・絵本を児童皆が見えるようにした方がよい。</li> <li>・最後通して言うときに、絵を指した方がよいと思った。</li> <li>・絵本を読むだけでもとても楽しい活動につながることがわかった。</li> <li>・もう少し児童の反応を見ることが出来たらよいと思った。</li> </ul>   |
| <p>歌『Seven Steps』<br/>絵本『Five Little Monkeys Jumping on the bed(Eileen Christelow)』</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童役と上手にコミュニケーションが取れていて、流れもスムーズだった。</li> <li>・最初にあいさつをして、答えたら褒めてくれたので、意欲的に授業参加できると考えた。</li> <li>・とても元氣がよかった。流暢すぎると、小学生には分かりづらいかもしれない。</li> <li>・本を読むスピードが速くて、何を言っているのか理解できない部分もあった。</li> <li>・もう少しゆっくり読んだ方がよい。</li> <li>・発音を意識しながら、正しく言えていたところがよかった。</li> <li>・発音や強弱の付け方が上手だった。</li> <li>・もう少し大きな声で言えたら、もっと良い発表になっていた。</li> <li>・数字の発音がよかった。</li> <li>・数の振り返りとサルを数える活動があるので、読み聞かせに入りやすい。</li> <li>・始めに、数字の歌を歌わせてから読み聞かせに移っていて良かった。</li> <li>・歌に入るとき最初から歌ってよいのかどうかわからなかったのが、"Listen carefully."などの指示があったらよかった。</li> </ul> |



|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数字が出てくる絵本に合わせて数字の歌も入れていて、学ぶことを明確にしているよかった。</li> <li>・絵本に関連する内容を読む前に確認しているよかった。</li> <li>・読み聞かせのとき、数字と一緒に数えてもよいと思う。</li> <li>・絵や本を見せるときは指でさしてわかりやすかった。</li> <li>・声のトーンが一定だったので、場面によって変えてもよいと思った。</li> <li>・もう少し感情を入れて読んでもよいのでは。</li> <li>・絵本の持ち方。見づらかった。</li> <li>・読み聞かせなので、きちんと絵本を見せる間を取った方がよい。</li> <li>・実際に授業する際は、本の大きさを変えたり、児童を前に集めたり、工夫が必要だと思う。</li> <li>・読むとき児童の反応を見ていた。</li> <li>・本を見すぎて児童の顔を見ることができていなかった。</li> <li>・児童を巻き込んでいてよかった。</li> </ul>   |
| <p>絵本『The Very Hungry Caterpillar (Eric Carle) 』</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の高さを子どもの目線に合わせていた。</li> <li>・本をもう少し見える高さにするとよい。</li> <li>・声が少し小さかった。</li> <li>・みんなが堂々と大きな声で言えれば、よりよい発表になった。</li> <li>・活動の流れや発音を意識して言えたところがよかった。</li> <li>・アクセントを意識して読めていた。</li> <li>・読み聞かせのとき、感情を込めて読んでいたり、強調したいところを2回読んだりなどの工夫が見られた。</li> <li>・ゆっくり読んでいたので、物語がよくわかった。</li> <li>・分かりやすく、指で指し示していて、分かりやすかった。</li> <li>・児童に問いかけや答えに対する反応があり、キャッチボールできていた。</li> <li>・絵本に出てくる食べ物を復唱させて、絵本に入るので理解しやすい。</li> <li>・児童の反応を見つつ、リピートさせて発音させている点がよかった。</li> <li>・繰り返し言わせることによって児童の頭に入りやすいと思うので、新出単語などがあるときに使えそうだった。</li> <li>・リピートするとき、もう少し声のトーンや大きさを盛り上げるとよい。</li> <li>・絵本を読みながらジェスチャーをつけていてよかった。</li> </ul> |

英語で発表することに、緊張し、練習のときのようにいかなかったと、振り返りをしている学生もいれば、先生役が明るく、子ども役の人たちが惹きつけられるような発表ができたグループもあった。

英語の発音に関しては、発音がとても丁寧で、きれいだったグループもあれば、発音が曖昧、おかしい、〔l〕と〔r〕の発音が上手にできなかった、イントネーションがおかしい等、まだ課題が多い。授業時間外にかなり指導をしたが、発音を矯正するための方策を考える必要がある。

児童にわかりやすく伝えることについて、声の大きさに気を付け、またゆっくりはつきりと発音することの大切さにも気づいていた。また、絵本を理解させるため、動きやジェスチャー、指で指し示す、リピートさせて発音することなどが有効であることにも気づいていた。さらに、流暢すぎると児童にはわかりにくいことも感じていた。

これは、絵本の読み聞かせについての指摘事項になるが、絵本の持ち方や子どもの目線に合わせた本の高さ、感情を込めて読む、絵を見せる間をとることなどにも気づき、絵本をみんなが見えるよう児童を前に集めることなどを提案した学生もいた。

授業の進め方については、『当てる児童が同じ』という指摘もあったが、褒めて雰囲気づくりをしたり、児童とのキャッチボールができていたり、児童の反応を見ながらリピートさせたり、と前時の活動発表より、児童の反応をみながら動くことに気を付け、実際に対応できてきている様子が見える。

また、児童が楽しく、わかりやすいのは、どのような授業かについて、コメントを記入している学生も多くいた。例えば、『児童の反応を見ながら、絵本を読み進めていて、内容が理解しやすいと思った』、『何回も同じ単語を繰り返したり、動作を付けたりして単語を言っていたので、とてもわかりやすいし、スムーズに理解することができた』、『ジェスチャーを使って、児童にもわかりやすくてできていた。とてもゆっくりで、丁寧で、分かりやすく、面白かった』、『今回のやり方は、児童もとてもわかりやすく、楽しく学習することができる。絵本を読むとき、数字を児童にも一緒に言わせるとよい』、『アクションを入れていて、よかった。みんな笑顔で取り組んでいた。新出単語の導入等にも応用できそうだ』、『何度も繰り返し発音を確認することで、楽しみながら活動ができていた。』、等。

さらに、英語の歌を読み聞かせの活動とアレンジしたことについても、『歌で、動きと発音をし、

絵本でも動物と動きを一緒にするので覚えやすい』、『始めに、数字の歌を歌わせてから読み聞かせに移っていて良かった』等、授業の流れについても気づきがあった。

3. 「小学校英語 I」の授業において「英語の活動（ゲーム（アクティビティ）・読み聞かせ）」を実施し、どのようなことが身に付いたか、についての学生の記述は、次のとおりである。

- ・ルール等の説明や実際に体を動かしてするアクティビティの際にいつも通りの身振り、手振りだと教壇に立った際にはまだまだ分かりづらいことが分かった。自分が思っている以上に大袈裟にする必要がある。
  - ・絵本の読み聞かせなどを通して、児童に話しかけるときは、ゆっくりはっきり発音する必要があることが学べた。その学年に応じた表現や単語を活用していくことも大切だと感じた。
  - ・歌や絵本の読み聞かせ、発表を通して、英語で児童とコミュニケーションをとろうとする力が身に付いた。
  - ・児童が英語に親しむために、ただ英文を読むだけでなく、歌や本を使って楽しく学ぶことが大切だということが身についた。
  - ・ゲームや読み聞かせなどをうまく行うことで、児童が楽しく英語を覚えることができたり、英語を楽しいと思わせ、学習意欲を引き出したりすることができると思った。
  - ・授業を工夫してアクティビティや絵本の読み聞かせをし、楽しく学べる授業はとても大切だと考える。
  - ・絵本を読み聞かせるだけに時間を割くのではなく、導入部で出てくる単語の説明や話のあらすじを説明することで、児童の学びを円滑に進めることができたり、定着をすることができると学んだ。
  - ・アクティビティでは、臨機応変に対応することや実際に自分も動きながらすることによって、実践的な英語の力が身についた。
  - ・アクティビティや絵本の読み聞かせでは、英語をインプットする力が身についた。
  - ・声に出して読むことによって、自分の読んだ文が耳からと目で文章を追うことから、視覚と聴覚とで英語を覚えることができた。・絵本の読み聞かせで実践でき、クラスルーム・イングリッシュは7割程度定着したと考える。
- 話すときも基本的に英語なので、いつも通りの感覚で説明すると、児童には何を言っているのか分からないということも「小学校英語 I」で学ぶことができた。
- ・小学校で外国語として英語を教えるうえでの、学習活動の知識が豊富になった。
  - ・これらの活動はすべて学習に役立ったと思う。アクティビティのDVDを見たときは、簡単にできそうだ、という気持ちをもっていたが、ただ覚えるだけでなく、児童の反応、話す速さ、正しい発音など様々なことに気をつけていかなければならないと感じた。小学校では、反復練習で単語を覚えるのではなく、音楽や体を動かし活動を通して、学んでいく。児童が楽しんで学んでいくにはたくさんのレパートリーを増やしていく必要がある。
  - ・絵本の読み聞かせなどでは、特に声が大きく、はっきりとした口調の人は、楽しい授業をしていたように感じたので、自分もそのようにできるように意識して前に出たとき発表することが大切だと学んだ。こうしたことは今後の英語以外での前に出る場面でも必要なことであると考えるため、学習に役立ったと思う。
  - ・英語を児童に伝えるための力が身についた。他の人の発表を見の中で、自分には、何が足りないのかを考えることができた。普段発さない英語で発表することは緊張になれる練習にもなったと考える。
  - ・絵本の読み聞かせや英語の歌、ゲームを行う活動では、これらの活動を行うために、英語を使って子どもたちに説明する場面が必ずあるので、小学校英語で子どもたちにどのような英語を

使って、どのように授業を進めるか、活動を通して、学ぶことができた。指導法でさらに力を身に付けていきたい。

- ・活動を通して、児童の反応をきちんと見ていくことを学んだ。児童の反応はとても素直なので、自分の説明が伝わっていなかったら、行動ができないことや、すぐに授業に入っていくのではなく、歌や簡単な会話をすることで児童の実態を知る学びができた。
- ・アクティビティでは、表現力が身についた。
- ・児童の前で発表する力が身についた。
- ・小学校では、英語を使った遊びや、歌を歌ったりすることが多くと思うので、これからの模擬授業や指導案作成に役立った。
- ・「伝える」ということをしっかりと意識し、それをゆっくりはっきりしゃべることは身に付いた。
- ・「伝える」ために、何をどう工夫したらよいかを考える力もついた。実際に行動に移し、掲示物を用意したり、ジェスチャーをしてみたりなど、できるようになったことがたくさんある。
- ・たくさんの活動を重ね、児童にとって聞き取りやすい話し方、表現の仕方が身に付いた。
- ・英語を使ったゲームをする際にどのような点に気を付けて行うか、どのような工夫をすることで、児童に分かりやすく伝えることができるかを考える機会になり、授業を行う力が身に付いた。
- ・英語に関する発音や活用できる表現はもちろん、児童に対して、声をかけるときに気を付けるべき声のトーンや繰り返し伝えたり、指をさして示したりすることの大切さを身に付けることができた。
- ・授業者としてはまだまだだが、授業の基礎となる事項や授業する以前に知っておくべきことを改めて学べたし、新しく知ることができたこともある。
- ・簡単な英語での表現や授業をするイメージが身に付いた。
- ・授業をしていく上での技を吸収できた。
- ・自分の発音が、英語の発音とだいぶ違っていることに驚いた。
- ・自分の英語を話すこと、聞くことの甘さを身をもって実感した。…まずは、自分の英語の発音であったり、挨拶から見直していきたいと考える。
- ・アクティビティ活動を一度自分が体験する、人が行っているのを見ことにより、自分が授業を作るときに知識として大きく役立つ。
- ・英語をうまく働かせて使うことができる力を身に付けることに役立った。絵本の読み聞かせやスモール・トークの発表などで、教師側だけでなく、児童側も体験することで、子どもたちが理解しやすく楽しいと思える読み聞かせや発表について理解を深めることができた。
- ・絵本の読み聞かせなどでは、実際に教師役と児童役に分かれて実際の授業のように英語を使うことができたので、児童がよくわかっていないときの声の掛け方や、どのようなことに注意すると児童が分かりやすくなるのかを、実際に体験することができた。言葉の掛け方などで、児童の動きが全く違ってくるのだなということを知ることができた。
- ・グループで練習することで、自分ができていないことが見えた。
- ・同じグループで意見を出し合って協力したり、児童に伝わりやすくするにはどうすればよいかを考えながら活動に取り組む力が身についた。

小学校外国語を指導するにあたっての英語力は、質的に異なる英語運用力が必要とされる。そうした運用力をつけるためには、やはり教室の指導の場面と脈絡に身を置いて、指導者として具体的に英語を使おうとする体験が、おそらく最も真正性が高く、学生にとっても有効な学習法なのではないかと考えられると「英語教員養成コアカリキュラムの検証と具体的・包括的プログラムの開発」報告書（東京学芸大学, 2021, 36頁）に書かれている。

授業の場面を想定し、ゲーム、絵本、歌などを、クラスルーム・イングリッシュを交え指導する教

師役を経験することで、楽しく、分かりやすい授業がどのようなものを体験でき、それにより子どもたちの学習意欲が向上することを意識することができている。また、ゲーム、歌、絵本の読み聞かせ等において、ゆっくりはっきり発音し、ジェスチャーや動作もしっかりとつけることが重要であることも、自らの発表や他のグループの発表を通して、かなり理解、実践することができている。児童に伝えることについても、どのようにすればよいのか、どういう工夫が考えられるのかに気づくこともできてきている。さらに、教師役と児童役との両方を体験し、他のグループがしているのを見て、振り返りや評価をすることについても、一つとして同じパターンがない発表内容になるようにし、さらに授業外での指導・練習により、ある程度のレベルのアクティビティになるようにしたので、他のグループが行った多くの活動場面からも学ぶことがより多くなったのではないかと考える。学習形態としては、6人程度のグループで練習、発表をさせた。一人一人が役割を持ち、自分のパートはしっかりと役割を果たさなければ、他のメンバーがフォローすることは難しい。他人頼みにならず、一人一人がグループの一員として練習をしていたので、個々人の練習にもなったのではないかと考える。

外国語指導法の指導内容では、小学校において外国語活動・外国語の授業ができるようになることにねらいを絞って、小学校で使っている教材を使い、授業で扱う英語表現や活動を学生に体験させ、授業づくりを軸に必要な知識を解説していくというコースデザインもできる（東京学芸大学、2021、58頁）という記述がある。昨年度の体験をもとに、今年度の「小学校英語Ⅰ」の指導内容をより充実させるとともに、この実践体験が3年次前期の「小学校英語指導法」の授業で活かされるよう取り組んでいきたい。

#### 参考文献・引用文献

東京学芸大学、2021、「英語教員養成コアカリキュラムの検証と具体的・包括的プログラムの開発」報告書。